松江まちかどダイアリー

6/9 中海・宍道湖一斉清掃 開催

17回を迎えた今年は、総勢1,720人の市民のみなさまにご参加いただきました。

松江、出雲、安来、米子、境港の５市全体で計11トンのごみが回収されました。

6/9 第９回松江市消防操法大会 開催

消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を目的とする、消防操法大会を５年ぶりに開催しました。団員は、小型ポンプ操法の技術を競い、日ごろの訓練の成果を発揮しました。

松江市ホームページ

防災メールに登録しましょう。
ＱＲコードを読み取って、
空メールを送ってください。

商標について：ＱＲコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

市報松江 目次

02 祝 出雲地方の大型古墳 史跡指定100周年
04 松江まちかどダイアリー
05 松江市長 上定昭仁の「上を向いていこう」／まいぶんTIME
06 安居楽業／シリーズ松江の匠
07 松江の皆さんこんにちは。／マイレポート
08 「わいわいルーム」に遊びにおいで！
09 松江市公式LINE友だち募集中！／まつえナビ
10 国宝松江城マラソン2024開催／夏を安全に楽しむために
11 ～中小企業者向け～ エネルギーコスト削減のための補助金
12 自然災害に備えて～準備はできていますか?～
13 あなたの睡眠は大丈夫？睡眠の健康について
14 8月は「食品衛生月間」です 食中毒に注意しましょう
15 公共施設適正化計画進捗状況／令和５年度下期松江市公営企業の経営状況
16 子育て・健康・福祉
18 情報ひろば
25 でかけてごしない～イベント情報～

松江市長　上定 昭仁 の

上を向いていこう

Vol.37

「NHKの朝ドラに「ばけばけ」決まりました！」

明治時代に松江に暮らした文豪・**小泉八雲の妻セツをモデルにした**、NHKの連続テレビ小説**「ばけばけ」の制作が決定**しました。来春から松江市内でドラマの撮影が始まり、**来年秋から半年にわたって放送**される予定です！

このドラマ化については、およそ2年前からNHK放送センター（本部）を複数回訪ねて役員や制作担当者に要望を行うとともに、地元の熱意とドラマ化の意義について訴えてきました。

名家に生まれながら時代の流れにより没落し極貧の生活を味わう**小泉セツが、ラフカディオ・ハーン（のちの小泉八雲）に出会い**、互いに異なる価値観を持ちながらも、コンプレックスや劣等感を抱えるがゆえに**心を通わせていくストーリー**。多様性を重んじる現代社会において、**小泉セツの生き方から学ぶことは多い**のではないでしょうか。なお、朝ドラ**「ばけばけ」**のヒロインは、「松野トキ」と名乗る見込みです。

写真提供：小泉八雲記念館

今年は、小泉八雲の代表作**「怪談」の出版からちょうど120年**。八雲の作品に大きな影響を与えたと言われる**セツにスポットを当てた企画展**が、来年6月まで**小泉八雲記念館で開催**されていますので、ぜひお出掛けください。

松江市では、小泉セツのドラマ化がその魅力を全国・世界に発信できる千載一遇の好機になることと期待して、**「ばけばけ」と松江のPRに力を入れてまいります**ので、市民のみなさんのご協力をよろしくお願いします！

〈小泉八雲記念館ホームページ〉

まいぶんTIME

今年は出雲地方の大型古墳国史跡指定100年！　市内の古墳について紹介します♪

Vol.19 徳連場古墳（とくれんばこふん）

玉湯町にある徳連場古墳は直径8.5mの円墳です。古墳の中央にはおよそ2.3mの舟形石棺（ふねがたせっかん）が露出しており、棺内からは鉄剣が1本発見されています。出土品や石棺の形から5世紀に築造されたと考えられ、被葬者は玉生産と密接に関係した人物であったと推定されています。古墳は出雲玉作資料館の北の山にあります。出雲玉作資料館と併せて訪れてみてください。

【問い合わせ】埋蔵文化財調査課　☎55-5284

徳連場古墳

地域おこし協力隊の

安居楽業

のどかに暮らし、仕事を楽しむ

〈松江市地域おこし協力隊〉

vol.2

移住生活3年目のあげ・そげ・こげ

7期生　波多野 真代

こんにちは！協力隊の波多野です。松江に移住して3年目を迎えました。

こちらに来てからの2年とちょっと、覚えているのが大変なほど充実した楽しい毎日を送っています。

私にはこの春2つの大きな変化がありました。

ひとつは、美保関町の美保神社の近く、「関」と言われる地域に引っ越したこと。

移住1年目に美保関支所と文化財課の取り組み「おかえりカフェ」に参加させていただき、月1回野菜などの販売やコーヒーを出す機会をいただきました。その中で知り合った地元の人たちのおかげで、美保関に引っ越せることに！憧れていた海辺暮らし、やっと自分の住処ができた気がします。

〈おちらと村のイベントにて〉

そして、私の人生で初めて開業届を提出！

こうじや「甘酸辛苦」が屋号です。多分こうじやとしては最小クラス。まだまだ勉強しながらではありますが、農家さんのお米に新たな息吹を吹き込みたいと日々邁進しております。

〈糀づくりの様子〉

そんな日々を過ごせているのは、全く知り合いのいない松江に来てからここでできた仲間たちのおかげです。イベントとなれば全力投球、意見も言い合うしアイデアも出し合います。そしてみんなが集まるとよく笑います。

だから不思議なことに、みんなといるとあっという間に時間が経ってしまうのです。話題も豊富！

仲間がいる松江で仕事ができていることに本当に感謝しています。

松江市の地域おこし協力隊は「地域資源活用コーディネーター」という肩書きを持っています。私たちが松江の地域資源を活用するというより、地域にいるみなさんが私たちをうまく活用してくださいね！という制度だと私は思います。

もちろん何でもできるわけではありませんが、これまでの仕事の経験や技術を生かして何ができるか、どんなことが必要なのか、一緒に考えて動けることが私たちの強みです。

松江はバイタリティ溢れる素敵な人たちが集うところ。

動けば動くほど、まわりの人たちが応援してくださいます。私のこれからの仕事は「こうじや」という媒体となって、松江を内にも外にもPRしていくことです。どうぞこれからもよろしくお願いします！

シリーズ「松江の匠」

市は長年にわたり地域産業の発展に貢献された技能者を表彰しています。

令和五年度 松江市手作り産業優良技能者表彰

坂田 博史 No.3

有限会社松江皆美館（未次本町）

（奨励賞 受賞）

推薦団体：松江調理師会

匠は、両親が共働きだったこともあり、こどものころから自宅で料理をする機会が多くありました。その影響もあってか、次第に料理の道を志すようになり、開星高校の調理科へ進みました。卒業後は市外の旅館で修行を積んだ後、平成14年から皆美館（未次本町）で働き始めました。匠はその当時、料理長であった佐藤治秀氏に強く影響を受けました。佐藤氏の料理の技術や知識はもちろん、料理にかける思いにも感銘を受け、「佐藤氏を見て、自分はまだまだ未熟であることに気づかされた」と匠は話します。

匠は今年の4月、佐藤氏の後任として料理長に就任しました。料理長に就任してからは、就任する前には気づかなかった苦労や責任があることを日々感じており、「まずはこれからひとつひとつ積み重ねていくしかない」と話します。

四季に合わせて献立を考えることも、料理長の役割のひとつです。匠は料理を提供する上で、味の抑揚や季節感を感じてもらうことを特に大切にしており、それぞれの季節を生かした構成となるよう、色彩も意識して献立を考えています。また、食材の産地を示すことで、お客様に風景が伝わりやすい工夫も行っています。

職人として心掛けていることを伺うと、「料理とは、単純に切る・焼く・揚げるといった作業のことではなく、その先に食べる人がいることを常に考えながら手を動かすことである。安直にならず、『調理』を超えて『料理』であるべき」と話したのが印象的でした。

匠がこれまで培ってきたお客様への思いやりと情熱は、提供される料理の中にしっかりと込められています。

〈松江の匠ホームページ〉

【問い合わせ】ものづくり産業支援センター　☎60-7101

松江の皆さん こんにちは。

国際交流員
高 星銀（コ ソンウン）

私は4月に韓国から国際交流員として着任しました高星銀です。幼い頃から日本の映画やマンガ、歌などを通じて日本の魅力を感じ、いつか日本で暮らしてみたいと思っていました。ようやく日本で働いて暮らすことができて嬉しく思います。

私は日本に住むのは初めてですが、それが松江でよかったと思います。私が住んでいたソウルは、活気にあふれ、娯楽施設も多く交通も便利ですが、競争が激しいため、その中にいると焦るようになります。松江に来てから徐々に落ち着き、少しずつゆったりとした気持ちを持つようになりました。高層ビルの代わりに、夜空に星がいっぱい瞬き、通勤の際には川でカメさんによく会えるからでしょうか。これから松江の魅力をたっぷり味わいたいと思います。

地理的に近いせいか、日本についてよく知っていると勘違いしやすいですが、しばしば思いもよらない場面でその違いや共通点を発見することがあります。例えば、同じくご飯と汁物を食べますが、韓国では汁物にご飯を入れて食べるのが普通です。でも、日本では汁物にご飯を入れて食べると下品な食べ方だと思われる点です。私はこれを知って驚きました。韓国では逆にご飯と汁物を別々に食べると、ご飯を美味しく食べられない人だと思われます。一方、両国とも砂糖を使って作るお菓子があります。韓国のダルゴナ（韓国ドラマ「イカゲーム」に登場したお菓子）と日本の型抜きカルメ焼きです。形は少し異なりますが、どちらも形を抜き取る遊びができます。韓国では主に小学校前の露店で売っていて、成功すればもう一個もらえます。いずれも砂糖が一般的に使われるようになった1500年代以降に作られたもので、同じ時期に似たような考え方から誕生したお菓子という点で不思議だと思いました。

私がそうであったように、みなさんにも新しいことを知っていく楽しさをお伝えできればと思います。松江のどこかでみなさんと共に韓国と日本のことについて話し合う日を楽しみにしています！

〈韓国のお菓子 “ダルゴナ”〉

まちをよくする マイレポート

古志原九区「防災訓練」の実施について

見守り部会会長 大西 庄平（おおにし しょうへい）

私たちの住む古志原九区は、古志原地区の南側に位置し、小高い山を削って造成された住宅団地で6つの自治会（会員400世帯）からなっています。

年1回は防災訓練を実施するという活動目標を掲げていましたが、コロナ禍で3年間中止となり、昨年久しぶりに開催することが出来ました。

今回は、昨年11月3日に住民46人が参加した古志原九区「防災訓練」の活動状況を紹介します。

①避難訓練

○防災無線と広報車を活用した避難情報の周知

《朝8時30分大地震発生》との想定で、防災無線（屋外スピーカー）2基と広報車により「一時避難所を香南団地集会所に開設した」旨、広報した。

○避難の実施状況

単独で行動できる者は近隣者と声を掛け合って避難を、「避難行動要支援者」に対しては、あらかじめ指定されている「支援者」が、車椅子を用いて一時避難所へ避難誘導した。

○避難者の受付と救護所の設置状況

一時避難所では救護所を設置し、避難者の受付と容体確認などを実施した。

②救急法訓練・消火訓練

○松江南消防署員から「応急処置」および「消火器取扱い」について講習を受けた。

その後、非常食や松江市防災メールなどの活用方法を説明し、訓練を終えました。

参加者の多くを占める各自治会の役員が毎年交代していることもあり、今後も同じ訓練を継続して行う必要があると思っています。《継続は力なり！》

今年の秋にも、防災訓練を計画しています。

いつ、どこで、どんな災害が発生するか分かりません。（必ずどこかで災害は起こります！）

まずは『自助』、そして『共助』の必要性を繰り返し考えながら、さらに「安心・安全な古志原九区」を目指していきます！

〈初期消火の実演〉

〈救急法の実演〉